



Team Dainan

八千代市立大和田南小学校
《校長室だより》
令和3年度 第38号
令和4年 1月27日

日本の中小工場 No.1 は、どこだろう？

～5年生 社会科「これからの工業生産とわたしたち」～



おすすめの商品のプレゼン

5年生の社会科では、日本の工業生産について学習をします。資源に乏しい日本は、海外から原材料を輸入し、工場で加工し、その形や性質を変えたり、部品を組み立てたりして生活や産業に役立つ製品を作り出していることなどについて学びます。

さて、私たちの暮らしを支えてくれている工場は、日本にいったいいくつくらいあると思いますか？ その数、何と約 35 万です。その内、働く人が 300 人以上の「大工場」の割合は約 1%、300 人未満の中小工場は 99%です。働く人の数の割合は、大工場が約 33%、中小工場は、67%です。生産額は、大工場が 53%、中小工場が 47%です。

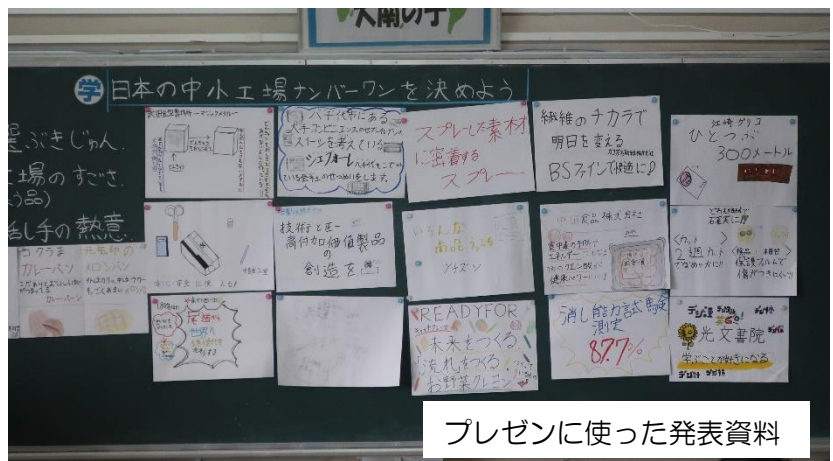
子供たちは、テレビのコマーシャルなどで大工場の名前は知っていても、中小工場の名前はほとんど知らないのではないのでしょうか？

しかし、日本の中小工場では、いろいろな種類が少しずつ必要な食料品や日用品などを作ったり、自動車や機械の部品を作ったりして、大工場の生産を支えています。以前、テレビのドラマで、これまで受け継いできた高い技術を発展させて、ロケットの部品を作るという内容のものがありました。日本の各地には、工場は小さくても、高度な技術や独自の優れた製品で、世界的に有名な工場もたくさんあります。

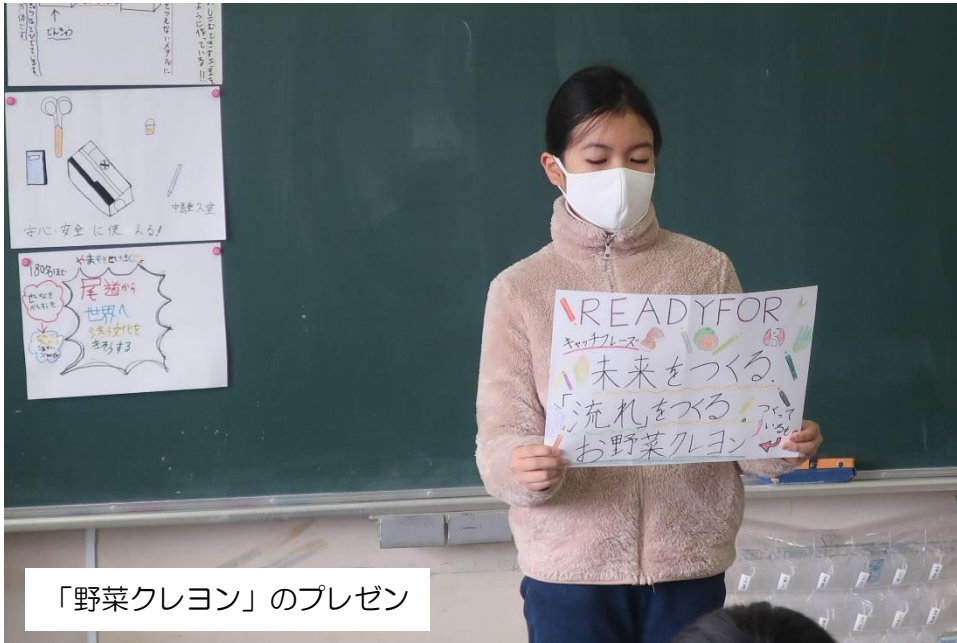
今回、5年生の担任は、子供たちの学習意欲を喚起するため、高度な技術や独自の優れた製品で「がちり！！」な中小工場に焦点を当てました。名づけて「日本の中小工場 No.1 は、どこだろう？」です。

子供たちは、タブレットや本などを駆使して、自分が気になる中小工場の商品について調べ、プレゼンを行いました。プレゼンの内容は、

- ①一押しの商品について
- ②商品のキャッチフレーズ
- ③感想 です。



プレゼンに使った発表資料



「野菜クレヨン」のプレゼン

結衣さんは、以前スーパーに買い物に行ったとき、野菜コーナーにあった「野菜クレヨン」を作っている工場について調べました。その一部を紹介いたします。

①「野菜クレヨン」を作っている工場は、従業員数170名、色素成分として本物の野菜を使用して、野菜そのものの色を表現しています。緑色はホウレンソウ、黄色はカボチャ、赤はトウガラシなどです。全部で10種類の色があります。

②キャッチフレーズは、「未来をつくる、流れを作る」です。

農業をデザイン！地域と農業の活性化を目指すため、野菜そのものの色を生かしたクレヨンを作りたいという思いから商品開発に至ったそうです。

③「私も野菜クレヨン調べて、野菜そのものの色を表現できているところがすごいと思いました。

それと、安心安全で小さい子どもが使っても、口に入れても大丈夫というところがすごいと思いました。」

紙面の都合上全部を紹介できないのが残念ですが、どの子の発表も「食べてみたい！」「使ってみてみたい！」と思うような商品を紹介していました。以下は、プレゼン後の子供たちの感想です。

- 人数が少ない会社でも、何億も稼いでいるから、人の頑張りがわかる。(やすのしん さん)
- 大工場や中小工場の製品をつくる人のことでわかったことは、人々がみんな幸せに暮らせるようにいろいろなものをつくっていると思います。(わたる さん)
- 大工場と中小工場働く人の人数は違うけれど、頑張っていて、私たちのためにつくっているとわかった。中小工場だけでもいろいろなものをつくっていて、びっくりした。(もえ さん)
- オリジナルのものをつくるのは難しいことだからこそ、それを作っているのはすごいと思った。たくさん売れるために、いろいろな工夫をしているのがすごいと思った。(れんたろう さん)
- 一つのことを大変な思いをしてつくっていることがわかったので、大切にしようと思った。(つづみ さん)
- つくるのに1日だけじゃなくて、すごく長い時間開発して、すごいなーと思った。(ゆうた さん)
- いろいろなメーカーさんと協力したり、チームを作ったりしているところに気づいた。(あみ さん)
- 一つ一つの小さな工場がたくさん集まって成り立っている。(しゅう さん)
- 中小工場や大工場は日本だけでなく世界に発信しているし、すごい技術を少ない人数でしている。(しゅんき さん)
- 身の回りであったり、そうじゃなかったりしても、人間が快適に生きるためにいろんなことがあるなと思った。(らんか さん)

